

本コンクール（ロシア語部門）の応募者はよく頑張っていて良い翻訳は多かった。その面でJLP主催のコンクールは大成功になったと確信している。優れた翻訳人材の育成に大きく貢献する場であるに違いない。

課題作品はとても難しいものだったが、全体としての翻訳レベルはかなり高かったと思う。したがって、優勝者を決定するのはそんなに簡単なことではなかった。審査委員会はたいへん迷ったこともあり、最優秀賞と優秀賞とは別に奨励に値する作品も選んだ。

選択は難しかったが、受賞者を決定すべきということで、私としての意見では、最優秀賞に最も適える者はエカテリーナ・コワリョワだ。基礎知識が豊かな方で、日本語原文の理解は深く、ロシア語の文体も優れていて、リズム感があって、言語意味のニュアンスをよく感じている。全体としては高い文学性がある翻訳といえる。

そのほかの受賞者の翻訳には、それぞれ優れた場面と特長がみられるが、一貫性が少し不足しているところもある。しかし翻訳の経験と実践を蓄えることによって、必ず乗り越えることができると思う。

本コンクールは終わったが、受賞者はみんな若い人ばかりなので、先に広がっている道は長いだろう。これからも努力して実力を十分に発揮しながら優れた翻訳者になるように期待している。

最後の感想ですが、コンクールの応募者のなかでは男女のバランスが崩れている気がする。女性が圧倒的に多いということだ。今のロシアでは女性に文学の力があるという証明であるかもしれない。モスクワの出身である私にとっては応募者のなかにモスクワ在住の方がとても少ないこともまことに残念に思いうが、財政の首都と文学の都とは大きな違いがあると痛感した。

アレクサンドル・メシエリャコフ